

第1学年 国語科学習指導案

指導者：熊本市立京陵中学校 東郷 かおり

I 題材名 「玄関扉」(三省堂)

II 題材について

1 題材観

本題材は、建築家である筆者が、ごく身近にある玄関扉を話題にして、玄関扉に表れた日本人と欧米人の生活様式や生活習慣の違いを述べた説明的文章である。

前半では、現代日本の住宅の玄関扉が、欧米とは逆に外開きであるのは、玄関で履き物を脱ぐといった生活様式に適した現実的な解決の方法であると述べている。後半では、外開きのドアであるのは、あいさつで相手におじぎをするという日本の生活習慣に適しているからであると述べられている。「日本」と「欧米」という地域の文化の対比、「生活様式」と「生活習慣」というレベルでの対比で述べられているところが本題材の特徴であるといえよう。

このことから、対比して読むことの学習の必要性が生じる。生徒にとっても身近な話題であり、筆者の考えを理解し、そこから、生徒に身近な生活の中に秘められた生活の知恵や日本文化について自分なりの考えを持たせやすい題材と考える。

2 系統観

指導事項	本題材に関連する言語技能	1 年			2 年			3 年		
		クジラの飲み水	玄関扉	食感のオノマトペ	ホテルの里づくり	心のリフレ	対話を考える	げげと私たち	平和を築く	「ありがとう」をいかに使うか
構成や展開	「問題提起」と「結論」を意識して読む	◎	○			○		○		
	接続する語句の役割を正しく理解して読む		◎	○			○			○
表現の仕方	対比されていることを読む		◎					○		

3 生徒の実態

本学級では、9割の生徒が「読書が好きである」と答え、時間をみつけては読書する姿が多くみられる。クラス平均で月に3冊、多い生徒で60冊読んでいるが、構成や展開を正確に読み取れなかったりと読む能力が高いとは言えない実態もある。

1学期、説明的文章である「クジラの飲み水」においては、文章構成の理解、「問題提起」、「事実」や「意見」の読み分け、指示語の指す内容の理解を中心に授業を展開した。

教材「クジラの音の世界」(光村図書1年)を用いて、本題材で学習する言語技能の実態を確認テストによって調査した結果は以下の通りである。

- 「問題提起」や「結論」を探し、正確に答えることができる。……88%
- 「接続する語句」である「しかし」を当てはめることができる……86%
- Aと比べているものを見つけることができる……71%

この結果から、約3割の生徒が比較することに関しての理解ができていない。「対比」については中学校では未習であるので、理解している生徒が更に低いと考える。まずは「対比」について、しっかり理解させた上で、対比されていることを正確に読み取らせるようにしたい。

4 研究の視点にそった授業の工夫

視点①「学習目標を明確にし、目的意識を持って読ませる。」について

毎時間、導入や展開の初めの段階で黒板に学習目標を視覚的に提示し、達成目標を明確にさせる。本時では、最終的に「筆者の考えを読み取る」という目的を達成させるため「対比」しながら読み取るのだということを展開初期の段階でしっかり押さえる。

視点②「言語技能を習得する場面と、それを応用する場面を位置づける。」について

本時は、授業の前半に言語技能を理解させ、後半で、その理解した言語技能を使いこなす場面として位置づけた授業を展開したい。

視点③「生徒自身が身についた言語技能を実感できる評価のあり方を工夫する。」について

「わかる」から「できる」という学習の展開を明確に位置づけることにより、生徒個々に達成感を味わうことのできる学習過程を設け、自己評価を用い、達成感の有無を吟味したい。達成感の有無を生徒自身が認識することは、自己評価力の育成という視点から将来に生きる国語力として重要だと考える。

III 学習指導の目標

文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てること。……………(C-1-U)

- 「問題提起」と「結論」から要旨をつかませる。
- 接続する語句に注意し、論理の構成を正しくとらえさせる。
- 玄関扉にかかわる日本と欧米の文化の相違について読み取らせる。

IV 指導と評価の計画（5時間取り扱い）

次	時	学習活動	評価規準	評価方法
1	1	★ドアについてのレポートを報告し合い、全文を通読、難語句の確認、接続する語句の役割を理解する。	< 関心・意欲・態度 > 習得した学習の知識や技術を使って読みに生かそうとしている。	観察・ノート
2	1	前半部分を読んで、日本の玄関扉が外開きである理由を考える。	< 書くこと > 事実と意見を明確に分けた文章を書くことができる。	ノート
3	2 本時 2/2	★☆後半部分を読み、玄関扉を対比しながら筆者の考えを理解する。	< 読むこと > 文化の違いを対比させて読み取ることができる。	ノート・発表
4	1	なぜ日本の玄関扉は外に開くのか、筆者の考えを理解する。	< 言語事項 > 文章中の接続する語句を指摘し、分類することができる。	観察・ノート

V 本時の学習

1 目標

- 類推したことをもとに7段落と8段落の関係を理解し、筆者の考えを読み取ることができる。

2 評価

評価項目	具体的な評価規準	つまずきへの手立て
関心・意欲・態度	自分なりに、筆者の考えを読み取ろうとすることができる。	班での読みの交流を行い、お互い情報交換をさせる。
読むこと	1 書かれていることから類推して自分なりに読み取り、8段落をまとめることができる。	導入での例を用いて説明するなど、個別指導を行う。
	2 7、8段落で、日本と欧米のドアが対比されていることを読み取ることができる。	班で助け合いながら学習させ、個別指導で「対比」に気づかせるようにする。

3 展開

★言語技能の習得の場面 ☆言語技能の応用の場面

過程	学 習 活 動	時間	基本発問・指示
★ 導 入	1 前時の学習を思い起こす。 (1)「自転車は便利だ。」 (2)「自転車は下り坂は楽だ。」 2 本時の目標を知る。 学習目標 類推したことをもとに7段落と8段落の関係を読み取り、筆者の考えをとらえよう。	5	○「自転車は便利だ。」「自転車は下り坂は楽だ。」という表現にはどのような事柄が隠れていましたか。
☆ 展 開	3 本文を読み、書かれていることから類推して8段落をまとめる。 (1)身につけた言語技能の運用方法を8段落で応用する。 (2) 班で読みの交流をする。 4 7段落、8段落から筆者の考えを理解する。 (1) 班で話し合い、発表する。 (2) 各班のまとめを比較して内容の理解に役立てる。	10 7 15 8	○72ページの13行目から73ページ3行目までを読み、書かれている事柄をまとめていきます。その中で、隠れている事柄を発見してみてください。 ○班を作り、読みの交流をしましょう。 ○では、8段落のまとめをもとに、7段落と8段落の関係を読み取り、筆者の考えに迫ります。 ○7段落と8段落はどんな関係にあるかを班で話し合しましょう。 ○各班の「読み取り」を比べて、筆者の考えを確認しましょう。
ま と め	5 本時の学習を振り返り、読みの成果を確認し合う。	5	○今日の学習を振り返りましょう。

教師の支援	評価 ●は言語技能の評価 ()は評価の方法	備考
<ul style="list-style-type: none"> 2つの例文を用いて、前時の学習した「書かれていることから類推する読み」について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に前時の学習を振り返り、発表しようとしたか。(観察) ○学習目標を理解することができたか。(観察) 	<ul style="list-style-type: none"> カードワークシート 目標カード
<ul style="list-style-type: none"> 8段落を読み、2部構成であることをつかませるようにする。 つまづいている生徒にはヒントカードを見に来るか、もらいに来るよう机間指導しながら指示する。 よくまとめている生徒のを班で1つ選び、そのうち数班に全体で発表させるようにし、次の学習につながるように黒板に整理する。 各班を巡回し、言語技能の運用のポイント「対比する」ことを意識させるようにする。 隠れている情報の発見が読みにどのように役立つかを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「一方」から、日本と欧米が対比されていることに気づけたか。(シート回収後の観察) ●書かれている事柄から類推し、8段落の内容をまとめることができたか。(観察・シート回収後の観察) ○班活動での自分の役割を果たし、意欲的に班活動に参加しようとしたか。(観察) ●欧米と日本のドアの違いを対比し、そこに表れた文化の違いを理解できたか。(発表・シート回収後の観察) 	<ul style="list-style-type: none"> ヒントカード ホワイトボード ボード用ペン
<ul style="list-style-type: none"> 書かれていることから類推して読むことの必要性を押さえる。 		